

By Bethany Cummings



ベサニー・カミングス

1996年、英国ウェールズ生まれ。子どもの頃に見たスタジオジブリ制作のアニメなどをきっかけに日本に興味を持ち、スコットランドのエディンバラ大学で日本語とアジア学を専攻。在学中に交換留学生として岡山大学で10カ月間学ぶ。2018年から東京都大田区役所で国際交流員として勤務し、文化や言語の架け橋として、外国人区民をサポートしながら大田区や母国の魅力を紹介している。区の外郭団体「国際都市おおた協会」のホームページで「ベサニーの大田区絵日記」を公開中。  
<https://www.city.ota.tokyo.jp/kokusaitoshi/kouryu/cir.html>

## Dialect: Speaking the same language, yet differently

Just like how in Japanese there is *hougen* **depending on** where you are, the English language is full of regional accents and dialects.

Growing up in **Wales**, I was **brought up** speaking with a Welsh dialect, and while I knew that English sounded different depending on where it was spoken, and that certain slang words are used in some areas but not in others, I honestly never **gave it much thought**.

In fact, it wasn't until I moved to Scotland for university and had the opportunity to meet people from all over the world

that I **realised** the **extent** to which language changed based on area.

You might think it strange of me to say, but moving to Scotland was far more shocking for me **language-wise** than moving to Japan. Japanese is something I had studied and practised a lot before actually moving here, whereas I didn't do any preparation before moving to Scotland. I never expected everyone's English to be so different.

Three of my **flatmates** were from Scotland (**albeit** different locations, so three different

accents) and one was from England, so we all spoke quite differently. We also often used different slang words and phrases.

Take the phrase "**play truant** from school" — I have always said "to mitch off school," which my flatmates told me they had never even heard of. Instead, they used words like "skiving" or "dogging" (Scotland) and "bunking" (England).

It was always interesting to me how many variations there are for one word.

### Dialect

(見出しから)方言

### yet

(見出しから)けれども

### depending on

~によって、応じて

### Wales

ウェールズ。英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国/United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)を形成する地域の一つ。後出の Welsh(ウェールズ語)は英語とは全く異なる言語

### (be) brought up

育った、育てられた

### give(gave)...

### thought

それについてよく考える。give much thought to it の語順も可能

### realise(d)

理解した、分かった。米国つづりは realize

### extent

規模、程度、度合い

### language-wise

言語に関していえば

### flatmate(s)

(アパートの)同居人。(英) flat は(米) apartment にあたる

### albeit

~ではあるが

### play truant

学校をサボる

対訳

## 方言となまり：同じ言語なのに、違う話し方がある

日本語に地域によって方言があるように、英語にも地方によってなまりや方言がたくさんあります。

ウェールズで生まれ育った私は、ウェールズ方言を自然に身につけました。英語は使われる地域によって発音が異なることや、特定の俗語も使用範囲が限られていることは知っていましたが、正直なところまったく気に留めていませんでした。

もっとはっきり言えば、大学進学のためスコットランドに移り住んで、世界中から来た人々と会うまでは、言葉が持つ地域差を認識したことはありませんでした。

こんなことを言うと変に思われるかもしれませんが、言葉の面では来日時より、スコットランドに移ったときの方が、はるかに衝撃的でした。日本語は、留学前に猛勉強・猛練習を重ねていましたが、スコットランドに行く前には何の準備もしていません

でした。みんなの英語がこんなに違うとは、思ってもみませんでした。

アパートで暮らすルームメイトのうち3人はスコットランド出身で(出身地が違うのでアクセントも違います)、1人はイングランド出身だったので、全員が異なる話し方をしていました。また、それぞれが独自の俗語や表現を使っていました。

例えば「学校をサボる」という表現です。私はいつも「mitch off school」と言っていました。ルームメイトたちからは聞いたこともないと言われてしまいました。その代わりに(スコットランドでは)「skiving」「dogging」、(イングランドでは)「bunking」といった表現を使っていました。

一つの言い回しに対する多様な表現法は、私にとって常に興味をそそられるものでした。

(訳 田端節子)